

認知症と向き合う2 (全3回)

認知症専門外来とリハビリテーション

早期受診のすすめ

認知症は、いったん獲得されていた知能が、脳の器質的障害によりもとは戻らない形で低下する状態をいいます。いざ、ご自分やご家族が認知症かなと思った時、どうすればよいのか戸惑うものです。そんな時、お近くの専門外来に受診されることをお勧めいたします。

〔診断の4つの視点〕

① 認知症と同じような症状を示す身体疾患を除外するための身体検査など
 ② 脳の器質的・機能的異常を知るための検査—MRI・CT必要に応じて脳波など
 ③ 認知症は、神経変性疾患、パーキンソン病に合併することもあり、また、正常圧水頭症、脳腫瘍、内分泌疾患、薬剤性など

原因疾患の治療で改善するものもあります。

認知症の代表的なものとして、脳血管性とアルツハイマー型があります。脳血管性は、食事療法・薬物療法やリハビリテーションにより、血行障害の改善や進行の抑制を図ることが期待できます。認知症の7〜8割を占めるアルツハイマー型は、周辺症状に有効な薬剤が国内でも使われ、早期であれば一定期間進行が抑えられるようになりました。できるだけ早い段階で基礎となる原因疾患をはっきりさせ、ご本人ご家族の意思のもとで治療・介護・リハビリテーションを進めることが大切です。

④ その他、生活上の不便さについて

知的機能の低下の有無とその程度を簡便に示す指標として、

当院ではHDS-R (改訂長谷川式簡易知能評価スケール)と、MMSE (ミニメンタルステート検査)を中心に行っています。これらの検査では、見当識・記憶力・計算力・言語的能力・図形的能力などを測定します。

検査中は、あらかじめ知的機能を評価するという姿勢では臨まず、世間話などをしながら始めると比較的スムーズに導入できます。また、質問に答えられないことや忘れてしまった時には「緊張すると思いついた時」など自尊心を大切に声をかけながら行います。臨床心理士の信頼関係やその日の心身の状態などで結果は左右されるため、留意しながら検査を進める必要があります。

④ その他、生活上の不便さについて

ついて

ご本人やご家族からみて現病状によって困っていること、生活上不便に思っていることをお伺いいたします。診断とその方の事情に応じ、精神保健福祉士などが各種介護福祉サービスのご紹介や生活上のアドバイスをいたします。

待ち時間緩和のため予約制となっております。どうぞお気軽にご連絡ください。

◆フリーダイヤル
0120-21-6878

認知症リハビリテーション—作業療法—

当院では各病棟に担当作業療法士がおり、毎日午前と午後充実したプログラムを行っています。



専門医による認知症外来



心理検査

あれみゆう Aller mieux とは: タイトルになっているこの言葉は、フランス語で「病気が快方する・事態がよくなる」という意味です。

認知症治療病棟 作業療法プログラム

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	学習	カラオケ	お話の会	学習	ビデオの会
午後	回想法・レクリエーション	芸術・手工芸 (書道・絵画)	レクリエーション	手工芸	寺子屋
	書道	回想法・レクリエーション	書道	回想法・レクリエーション	



スタッフによる模擬回想法

まず、認知症治療病棟では、年齢や病状に個人差が大きいので、みなさんで楽しめるよう内容に工夫を凝らしています。一週間の流れは表の通りです。

(1) 生活機能回復訓練
 楽しみながら行う身体活動は、良い刺激となり生活にハリを与えてくれます。

ゲーム・その方の身体状況に合わせて、体操や輪投げ・風船パレール・ボーリングなど動きのあるゲームを楽しみながら身体機能の低下を防ぎます。創作活動・貼り絵・塗り絵・折り紙・縫い物・習字などご本人に馴染みのある活動を通して、その人らしさを発揮できるよう関わっています。寺子屋・読み書き・計算などの学習を行い、「スラスラとできる問題」を解いていくことが脳の活性化につながるという言葉があります。また、「100点」をとり褒められると自信につながっていきます。

その他個別に正しい姿勢や動作のアドバイスをし、関節や筋肉を動かしながら拘縮・筋力低下の予防と改善を行っています。

(2) 回想法
 認知症の方々が今まで体験してきた家事・手仕事・遊び・歌などをテーマとして、昔よく使った生活道具などを用いて回想を促しながら、思い出話に花を咲かせます。昔の記憶は比較的良く残っているもので、ひとつひとつの思い出は表情豊かに活き活きと語られます。更に、季節感のある「今」の話を盛り込み、見当識にさりげなく働きかけていきます。

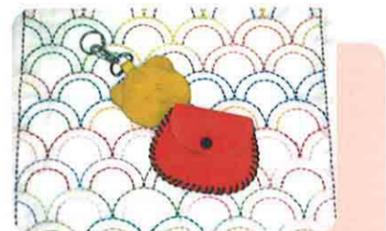
その他、四季折々の行事、毎月の誕生会、社会見学などが随時あり、患者さまとスタッフが共に楽しむ良い機会となります。

認知症の方々は、自分の置かれている状況が分からない漠然とした不安や焦燥、今までにできていたことができなくなる混乱や喪失感を抱えています。これらにできるだけ寄り添い、よき聴き手となるように心がけています。患者さまのかけがえのない人生のひとコマに関わっているというのをいつも念頭に置き、より自分らしい生活を送れるよう努めています。

※見当識↓自分が今どういう状態か、時間・場所・人物や周囲の状況を含め正しく認識すること。

病棟から、作業療法は、その方によってそれぞれに大きな意味があります。たとえば寺子屋では、書くことはできなくてもよく読めるなど意外な能力があり驚かされることもあります。また、活動中は徘徊などが一時的に治まる方もいます。それらの能力や可能性は看護にも生かされています。患者さまに人気があるのは、歌(演歌・唱歌・歌謡曲など)やゲームで、自然な感情表出ができる場となっています。今後今まで取り上げていない分野の音楽を盛り込んでみて、良い反応が期待できると思います。

*次回は、高齢者デイケアをお送りいたします。



革細工と刺し子



和紙工芸



籐細工